

【解説】 ここにあげられている一つひとつのエピソードは、どこかで聞いて大して気にも留めなかったことかもしれない。しかしこうして集められてみると、恐ろしくなるであろう。確かに地球上の全生命が、死に向かってまっしぐらに進んでいる。とりわけ実感として恐ろしいのは、ここで何度も言及されている自然界の不気味な沈黙である。ほんの数年前と比べても、春から初夏にかけて周囲がこんなに淋しく静かなことはなかった。“母なる地球”を母と思わず、生命の連続性・一体性を、単なる根拠のない空想として一蹴してきた我々の傲慢と強欲へのしっぺ返しである。我々は“引き返せないポイント”を通り過ぎたのだろうか？ だとすれば、我々は生まれ変わるために死なねばならない。これは地球再生のための不可避の過程と考えることもできる。なお、省略したが、各項目の末尾には必ず Link がついていて、出所が明らかにされている。

絶滅へ向かってひた走る生物

June 6, 2014

GeoengineeringWatch.org



地上の何十億という人々が全く無意味な気晴らしや娯楽に時間を費やしているが、その間にも、地上の生物は文字通り激減しつつある。主流メディアの、今起きていることについての作り話や無視は、全く理解しがたいレベルにある。我々の周りで地上生物が次々に死滅していく間、一般大衆は、来る日も来る日も自分たちに与えられる、目をそらされた側面を喜んで受け容れている。我々の集団としての未来は、いま全く文字通り、目を覚まして警鐘を鳴らそうとする人々の努力にかかっている。この集中する破局について、ただじっと坐って人に嘆くだけでは、この状況をどうすることもできない。我々は何とかがして、

この差し迫った危険にいまだに気付いていない、すべてのグループ、組織、個人に向かって呼びかけなければならない。一日一日が勝負である。——Dane Wigington

死んでいく我々の惑星

ひとつの証拠として、深刻になっていくミツバチの危機は、劇的な死滅の増加を示唆している。ミツバチの50%が今死に絶え、これは食糧問題をつくり出している。

2006年以來、ほぼ1千万のミツバチの巣が失われ、年ごとに減り方が深刻になっている。1947年には、全米に600万のミツバチのコロニーがあった。現在それは250万に減っている！

過去7年の間にアメリカで、6,700万のコウモリが“白鼻（white-nose）症候群”によって死滅したが、これはコウモリ総数の90%減に当たる（「潜在的絶滅」と考えられる！）。



ところで、なぜ、こうしたミツバチやコウモリの大量死が世界の大問題なのだろうか？ それは、ミツバチは単に蜜を作るだけではないからである。彼らは、花をつける我々の農産物の大多数を受粉させるという重要な仕事をしている。そこから我々は、果物、野菜、ナッツ類の多くを得ており、インゲン豆、大豆、ブロッコリ、もやし、人参、きゅうり、玉ねぎ、パースニップ（芹）、かぼちゃ、トマト、アーモンド、カシュー、りんご、ブラックベリー、ブルーベリー、カカオ、コーヒー、葡萄、キウイ、マンゴー、梨、ラズベリー、アルファルファ、胡麻、ひまわり、などはそのほんの一部である。人間の食品の大多数は昆虫の受粉による植物である。その更に完全なリストと、受粉についての詳しい情報はここ（リンク）にある。

ではコウモリについてはどうか？ コウモリは、我々の食べる他の食品——バナナ、マン

ゴー、ナツメヤシ、イチジク、桃、カシュー、グアバ、アボカドなど——を受粉させるだけではない。彼らは、農作物の害虫である信じられないほど多くの昆虫を食べる。過去 6 年間に病気で死んだ数百万のコウモリは、1年に数百トンという昆虫（害虫）を食べてくれたはずである。これに逆境的天候による作物の被害を加えるなら、問題の大きさがわかるだろう。

研究者たちは、赤潮が最初考えたよりも恐ろしいことを発見している。

各種報告によると、ロシアは大量の放射性廃棄物と原子炉を北極海に投棄し、アメリカは、何百万の弾薬等軍需品を海中投棄している。これは、海中での大量の油漏れを別にして、人間が海洋に対してやっていることの一例である。



世界の鳴き鳥の集団は消えつつあるのか？

地上の植物が繁茂しているのは鳴き鳥のおかげである。蜂と同じく、花を受粉させ種子をばらまくのは鳥である。鳥たちが昆虫をコントロール下に置き、葉と種と人間の作物を保護している。

しかし世界の主導的な鳥類学者たちによれば、鳴き鳥は消滅しつつある。

ある算定では、40年前に空を覆っていた鳴き鳥の半数近くを、我々は失ったかもしれない、と有名な鳥類学者 Bridget Stutchbury は言っている。世界中の科学者が時間と競争しながら、なぜこういうことが起こっているのか、それは何を意味するのかを発見しようとしている。

ヨーロッパの農産物に欠かせないマルハナバチの4分の1が絶滅



ヨーロッパのマルハナバチ (bumblebee) の4分の1が絶滅に瀕し、何十億ドル分の農産物の受粉が危機に陥っていることを、最近の調査は明らかにした。この調査はこの蜂の世界的な調査を計画しているが、その仲間たちは病気のために急衰退している。

ヨーロッパの作物の最も重要な5種類の受粉する昆虫のうち、3種類がマルハナバチ種である。

ホタテガイの大量死は世界の海の「赤信号」

太平洋の酸性の上昇は、世界で最も好まれる貝の一つ、ホタテガイを急速に死滅させている、とブリティッシュ・コロンビアの「魚介養殖協会」は報告している。

ある最近の研究は、海の酸性化は、海洋の歴史上類例のない速度——おそらくこの惑星が始まって以来最も速いスピード——で加速しており、巨大な規模で海の生態系を劣化させていると警告している。

ミネソタの謎——何がヘラジカを殺しているのか？

ミネソタ州のヘラジカが驚嘆すべき割合で死につつあり、生物学者たちはその理由がつかめないでいる。

1980年代、ヘラジカはこの州の北西部に約4,000頭いた。現在は約100頭になっている。このため州と、この地方のヘラジカの肉を常食とするチップワ族は、ヘラジカ猟を中止した。今年になって死亡率はわずかに回復したが、ヘラジカは、群を維持するのに必要な通常の率の2倍の速度で死んでいる。別の地方、ニューハンプシャー州やモンタナ州の、ヘラジカ生息の最南端地域の研究者たちも、この動物の数の減少に気付き始めている。

国際生態学者チームが、2048年までに海に魚はいなくなると2006年に予言



その原因は、過剰捕獲、汚染、生息地を失うこと、気象変化などである。研究者たちはいくつかの異なる種類のデータを分析した。これら冷静な生態学者にとってさえ、その結果は不愉快な驚きであった…「私は、これらの傾向がいかにかに一貫しているかにショックを受け、不安になっています——考えていた程度をはるかに超えています」と、**Boris Worm** 博士は記者団に語った。

「こんなことが起こるといふ予言はなかった。でも現在起こっています」と、英国「プリマス海洋研究所」の調査研究員 **Nicola Beaumont** 博士は、記者会見で話した。…しかし問題は単に、我々の食卓にシーフードが出るか否かではない。海の生物は海水から毒物を除いてくれる。彼らは海岸線を保護してくれる。そして“赤潮”のような藻類の花のリスクを減らしてくれるのである。

死んだ海の生物が、太平洋の海底の98%を覆っている

太平洋の海洋生物は驚嘆すべきスピードで死につつあり、この死と破壊のすべてのピークは、皮肉にも、日本の太平洋側で起こったある核事故と時間的に一致している。それでも、“sea-snot”（海の鼻汁）と言われるものを分析する科学者たちは、地球温暖化が原因だとして、フクシマから出る放射能には一言も触れようとしない。通常は、この“鼻汁”は海底の1%を覆う程度なのだが、現在それは約98%を覆っているようだ。

中国の河川の半分以上が1990年代以来、“消えた”

約28,000の河川が、中国の国家地図から消えている。これは環境保護団体が、過剰開発の不可逆の自然の犠牲として把握しているものである。

調査によって、100 平方キロメートルの地域を流れているのは現在、22,909 河川だが、1990 年代には 50,000 以上の河川が存在していたことが分った。これは水利資源省と国立統計局による 3 年間の調査で判明した事実である。

ウクライナで 70 種の魚が絶滅の危機

ウクライナの漁業連盟が、20 種類の国内産の魚が絶滅の危機にあるとして、警鐘を鳴らしている。「ウクライナ・ニュース・マガジン」の専門家たちが、魚の群を危険にさらしている理由を発見した。

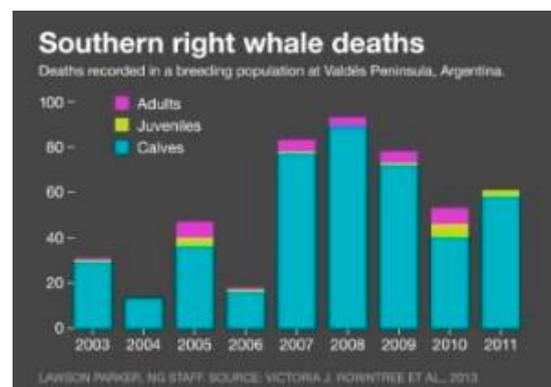
ウクライナ漁業連会長 Alexander Chistyakov によれば、いくつかの水域が多くての病気の発生源になっている。…その上、アレクサンドル・チスチャコフは、国内産の魚の群が劇的に減少していると言っている。

サハラ砂漠の生物が壊滅的に減少していることが、研究によって判明

世界最大の熱帯砂漠、サハラ砂漠に、その野生生物の壊滅的崩壊が起こっていることが、「野生動物保存協会」と「ロンドン動物学会」の率いる新しい研究でわかった。彼らの査定によると、14 種の砂漠種のうち半分がその地域では絶滅、あるいはそれらの歴史的な生息範囲の 1% 以下に縮小されていた。

歴史的な生息範囲のほとんどの所にまだ生息している唯一の動物は、ヌビア・アイベックス（大型野生ヤギ）だが、この動物でさえ、広範囲な狩りを含む多くの脅威にさらされて特別保護を受けている。

クジラの謎の大量死に科学者は頭をかかえている



驚くべき多数のミナミセミクジラの仔がアルゼンチンの沖合で死んでおり、海洋学者と動物保護局の心配の種となっている。

これまで科学者が原因を探ろうとしてきたが、その努力とは別のところで何かが起こっているようだ。

3億トンの廃棄物が地中海に

[これは翻訳情報] 地中海では 17,000 の海洋生物種が、3億トンの廃棄物と一緒に住んでいる。これはヨーロッパの科学者たちによって発見された。この状況は他の海や大洋でも同じである。これは海洋生物にとって脅威であるだけでなく、分解しない廃棄物を吸収したシーフードを食べる人間にとっても同じだ。

最近、一頭のクジラがポルトガルの沖合で死んだが、この雌クジラの胃には、17 キロのプラスチックが入っていた。これはクジラを殺すに十分な量だった。

ミズナギドリが毎年、これまでにない頻度で千羽単位の群で死んでいる



尾の短いミズナギドリが、9月の終わりに巣作りのために、アラスカと日本の間のベーリング海から、オーストラリアの海岸へ渡る。Lavers 博士は、彼らは、旅の途中で食べ物がほとんどないために疲弊して死ぬのだと言う。

彼女の説明では、10年に一度はこういう難破が起こるのが通常で、それは嵐や、到着したときに食べる魚がないという、特別に不運な年に起こっているのだという。しかし2007年以来、大きな難破が一年おきに起こっていて、これはより大きな問題がある証拠だと言う。…「これは単なる偶然や気まぐれで起こることではありません。単に（餌となる）魚たち

が1年か2年か3年、別の所へ引っ越したということではありません。これは明らかに、もっと大きな問題があることを示しています。」

研究者たちがカナダの海岸のシャチの、異常な死亡率と振舞いに驚く

あるバンクーバーの水族館のクジラ研究者が、B.C.とアラスカの北海岸の沖合に住むシャチの群に観察される“謎の”変化に、警鐘を鳴らしている。

Barrett-Lennard が言うには、ある住みついた群が過去2年のうちに、7頭の母家長を失ったが、これは異常に高い死亡率であり、彼はまた、通常はおしゃべりのこの哺乳動物の発する声が無くなったことに気付いた。定住しているシャチは夏には非常にやかましくなるのが特徴だが、2年続いて彼らは著しく静かだった、とバレット・レナードは言う。あまりにも静かなので、居場所が見つげにくいことがよくあるのだ、と。

オーストラリアから日本へ航海した人が、「海は壊れている、ほとんど死んでいる」と語る！

「この航海とそれ以前のすべての航海で全く違っていたのは、沈黙だった。…そこになかったのは海鳥の鳴き声だった。それ以前のすべての同じ航海では、鳴き声がボートを絶えず取り巻いていた。鳥がないのは魚がないからだった。」

正確に10年前、このニューカッスルのヨットマン Ivan Macfadyen が、全く同じコースをメルボルンから大阪へ航海したとき、ブリスベンと日本の間の海で魚を取るためには、餌を付けた釣り糸を投げるだけでよかった。…しかし今回は、その長い船旅のすべての航程で、取れた魚は2尾だけだった。魚もいない。鳥もいない。生き物らしいものはほとんどいなかった。

ブルガリアの沖ではシェール・ガス用の足場のために魚が消え、漁獲はゼロ！



[翻訳情報] 「Primorsko から村まで、漁師たちは空^{から}の漁網の propishteli (不詳) だ。…これまでの私の人生でこんなことはなかったし、これから何十年も海はこうなのだろう。魚が突然消えた——カツオもムツもボラも Zargana も全部だ。」

そして昨日、彼は空のボートで帰ってきた、その日の唯一の漁獲——2.5 ポンドのニシマアジの入った袋——を手につかんで。

Tsarevo の漁民によれば、理由はシェール・ガスのための足場にある。これが夏には海岸から 10 マイルほどのところにあって、…潜水夫たちも、このあたりの海底は死んだ魚で覆われていると言っている。

イワシの突然の消滅が、ブリティッシュ・コロンビアの海岸に深刻な打撃を与える

3,200 万ドルの商業漁業が、今年、B.C.の海岸で、説明することもできず完全に崩壊した。イワシの引き網漁船団が、一匹のイワシもとれずに帰ってきた。そしてこの小さな魚の群が消えることは、ずっと食物連鎖を遡ってザトウクジラにまで脅威となる。

ザトウクジラは何かが変わったことを我々に教えている。…「海の仕組みはとても複雑なので、実はその意味はよくわかりません。これが一年のことであれば、特に驚く理由はないのだが、なぜ続けているのかを知らねばならぬ理由はあります。」

北米全体を通じてヘラジカがいなくなったことに科学者は驚く

北米大陸全体に広がり、モンタナ、ブリティッシュ・コロンビア、ニューハンプシャー、ミネソタといった遠く離れた地域にわたって、ヘラジカの頭数が急降下している。そして誰もその理由を知らない。

20 年前には、ミネソタ州には地理的に離れた 2 つのヘラジカの集団がいた。その一つは、1990 年代以来 4,000 頭から 100 頭に激減し、事実上消滅した。

もう一つの、北東ミネソタの集団は、年に 25%減っており、現在、かつての 8,000 から 3,000 頭以下になっている。(ヘラジカの死亡率は、かつては年に 8~12%だった。) その結果、野生動物保護局はすべてのヘラジカを禁止している。

我々の海洋の健康状態は“急速に衰えている”



世界の海の健康状態は、これまで考えられていたより遥かに急速に衰えている、とある報告は言っている。

それは、古代において海に起こったような種類の、集団絶滅の条件が整っていることを意味する。

樹木を殺す菌類が“コントロールできず、止められなくなった”——英国で

ヨーロッパ中心地ではびこっている致死的な菌類が、いまイギリス東部と南東部で抑えが利かなくなり、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドでも爆発的に起こっている。

最近の公的な数字では、英国全土に 571 の感染個所があり、そのうち 334 か所は輸入されたトネリコに、213 か所はもっと広い環境に、24 か所は苗木育成地に起こっている。

“白化病”がカリブ海のサンゴ礁を破壊している

20 年前には、この病気が起こっている所を見つけるのはかなり難しかった。しかし現在はあらゆる場所に見られる。

ここ数年、全体の 70~80%が白化病で死んだサンゴ礁もある。

1965 年以来、白化しないサンゴの病気の報告も 50 倍以上に増えており、サンゴはますます減少している。

1980 年代には、世界全体の海岸の“デッド・ゾーン”は 162、現在は 400 を超

え、さらに急速に増えている



[これは 2008 年の報告] “デッド・ゾーン”が増えているという新しい報告がある。これは海岸地帯で、海水に含まれる酸素が極端に少なく、海の生物がいない領域のこと。

スウェーデンのゴーセンバーグ（イェーテボリ）大学の Diaz と Rutger Rosenberg は、“デッド・ゾーン”が現在、海洋生態系のストレスの主たる原因となっていて、グローバルな環境問題として、過剰漁獲や、生息場所の喪失や、有害な藻類の花（赤潮）と並ぶものだと言っている。

カナダの Babine 湖のベニマス漁が前例のない閉鎖の危機に

Skeena River のベニマス（ベニザケ）に依存しているブリティッシュ・コロンビアの原住民が、ベニマスの回帰の記録的な減少のために、きわめて困難な決断を迫られている。

今年、スキーナ川を泳いでいると予想されるベニマスは、昨年約 240 万に対して、45 万 3000 に過ぎず、すべての商業的、およびレクリエーションとしてのベニマス漁を閉鎖せざるを得なくなった、と Kotyk は語った。

「…我々は何かが海に起こったものと考えている。…私は長年これをやってきたが、こんな経験は初めてだ。私は長老にも尋ねてみたが、彼らもこんなことは全く経験がないと言っている。」

テキサスの Fracking ブームは、この州をカラカラにし、何千もの牛を殺しているのか？

(訳注 : fracking とは、シェール・ガスや他の地下資源のための掘削で用いる水力破壊工法で、大量の地下水を使う。)



「水がなくなった日、私は水道の蛇口をひねりましたが何も出ませんでした。そしてその瞬間、Barnhart の町全体がこの水道の下流にあると悟りました」と、彼女は涙を押し戻そうとして言った。〈神さま、お助け下さい〉という言葉が最初に思いついた言葉でした。」

3年間の早魃、数十年の使いすぎと、今、オイル産業のフラッキングのための水の法外な要求が、貯水池と帯水層を枯らしている。

牧場主は彼らの家畜のほとんどを棄てた。綿農家は収穫の半分を失った。過剰な水抜きと早魃が一緒になって、牧場主は家畜に飼料と水を与えることができなくなった、と Buck Owens は話した。よい年には、オウエンズは 500 頭の牛と 8,000 匹の山羊を、7,689 ヘクタールの借りた農場に放牧していたが、今では彼は数百の山羊しかもっていない。

太平洋マグロの量が驚嘆すべき下降線

ある会議の結果あきらかになったことは、あまりにも多くの商業漁船が、生態系に広い深刻な影響を与える高度に破壊的な漁業技術を用いて、太平洋資源を奪い尽くしていることだった。

太平洋水域の最も価値の高いマグロ「太平洋 bluefin」は、現在、その本来の量のわずか 4 % にまで減少していて、他の種のマグロも、緊急の管理行動が取られない限り、この破局的な下降線をたどる危険性がある。

米東海岸のイルカの座礁が科学者を驚かせる

アメリカの東海岸沿いに、死んで、あるいは瀕死状態で打ち上げられるイルカが異常に多

くなっている現象が、科学者たちの関心を引いている。

ヴァージニア水族館と海洋科学センターは、最初、イルカの死のつながりを無視していたが、現在、その考えを再評価している。「我々はその件が少し気になっている」と、ヴァージニア水族館の Mark Swingle は WAVY に対して語った。「それは明らかに、一年のこの時期に我々が見慣れているものとは違う、より高いレベルの出来事だ。」

地球全域の鳥類の減少は惑星的危機のしるし

地球全域で鳥類が減少している現象は、地球上の全生命——人間を含めて——に影響を与える地球環境が、急速に劣化していることの証拠である。

世界の鳥類のおかれた立場は、他の多くの生物種が絶滅に向かい、あるいは急速に減るとともに、悪化の一途を辿っている。鳥たちは、正確で読みやすい環境バロメーターを提供していて、これによって我々は、我々の現在の生活様式が世界の生物多様性に与えているプレッシャーを、はっきり読みとることができる。

クラゲの増加は世界の海の病気を表わしている



これらの動物の過去数十年の急速な増加は、この惑星の劣化する海の健康のしるしだ、と専門家の Lisa-Ann Gershwin は言っている。ガーシュウィンによれば、これらの魅力あるきれいな無脊椎動物は、実は海洋の健康の先触れである。それらは何かがバランスを失っていることの指標だ、と彼女は、CBC ラジオ番組 Quirks & Quarks のホスト Bob McDonald に語った。だからそれは炭鉱で使うカナリアのようなものだ。ただ、カナリアは何か具合が悪いときに死ぬが、クラゲはそういうときに繁栄するのである。

大西洋ツノメドリの集団がアメリカで危機状態

大西洋ツノメドリの集団がアメリカで危機に瀕しており、海鳥一般が世界の他の場所でも

苦しんでいる徴候がある。メイン州の 2 つの最大のツノメドリ群棲地で、幼鳥の生き残る率が昨夏、急激に落ちた。そして、メイン州東部から 10 マイルのカナダの島にある最大の群棲地のツノメドリたちは、健康状態が悪化している。ツノメドリや他の海鳥たちが困難に陥っていることを示す十分な徴候がある、と長年ツノメドリを研究してきたメイン大学教授の Rebecca Holberton は語った。

研究されている動植物種の 60%が、過去 50 年間に消滅——英国で

RSPB（鳥類保護王立協会）から英国地衣類学界に至る、25 の野生生物研究組織によって編集されている State of Nature の報告は、3,148 生物種の調査結果を照合している。この記録文書によれば、消滅の理由は多数でさまざまだが、そこには気温の上昇と生息地の劣化があるとしている。

*キジバトは 1970 年以來 97%減少した。

*ハリネズミは新世紀以來、ほぼ 3 分の 1 減少した。

*ヒオドシチョウは、過去 10 年の間に 77%減少した。

*初期のマルハナバチと tormentil mining bee は、1970 年以來、生息範囲が著しく減っている。

*V-moth（蛾）の集団サイズは 1960 年代の 1%以下と推定される。

*Corn cleaver には、植物種の最も劇的な衰退の一つが起こっている。

コウモリの集団はヴァージニアとノースカロライナで、90%減少した



ノースカロライナ：この地域の坑道や洞窟で冬眠するコウモリを観察する生物学者たちは、北東部のコウモリを殺しているある菌類が、殺す力を失って南へ移動してきたかもしれないと空疎な望みを抱いていた。が彼らは失望した。白鼻症候群が、この地域の 3 つの場所

で90%以上のコウモリを要求した、とN.C.野生生物資源委員会は報告した。そして現在は、ノースカロライナ西部の7つの郡でこれが発見されている。

ヴァージニア：北東部のコウモリを壊滅させた謎の病気が、今はヴァージニアの洞窟を殺しの部屋と化し、いくつかの集団の89~99%を亡きものにした。以前には公表されていなかったこの不気味な数字は、科学者団が1月から3月半ばまで行った、21個所のヴァージニアのコウモリ洞窟の調査から来ている。

科学者たちが時間切れに逆らってカエルの救出を試みる

湿った、苔むした部屋の中で、ずらりと並んだガラスの水槽の中に、不気味な光を浴びて、最後となったカエルの最後の者たちが保護されている。それは安全を確保された施設だ。なぜなら、ここには彼らの種のわずかの生き残りが住んでいるが、彼らは、この惑星の両生類を絶滅させようとする恐ろしい最後の日の出来事として、ある現代の疫病が彼らの森と小川を吹き渡る前に、野生から救い出された者たちだからだ。

管理する人たちは、これら凝った装いの、珍しい、神秘的な捕虜たちを繁殖させることができないか望みを抱いている。そして彼らの子孫を、なんとかして、いつか、どこかで、野生に返してやれないものかと願っている。それは、あなたが考えるかもしれないほど簡単ではない。なぜならカエルたちを殺しているそのものは、まだ外にいるからだ。

世界の手つかずの熱帯林の中で、水は依然として清らかに澄んで流れている。そしてジャングルは相変わらず、緑の、激しく息づく生命に満ち溢れている。しかし何か欠けている。かつて狂ったようにカエルの歌声が、終日終夜こだましていたこの場所を、いま不気味な静寂が支配している。小川は静かになった。カエルはいなくなった。

ハタネズミの繁殖力がヨーロッパで低下している

ある大きなヨーロッパの生態系の運命が、ごく小さな、ネズミに似た動物の集団にかかっている——すなわちハタネズミだ。ハタネズミは食物連鎖の最低点近くにいる。そしてこの動物の運命は、生態系の残りの者たちにサザナミ効果をもつ傾向がある、と英国アバデューン大学の生態学者Xavier Lambinは言っている。その繁殖の低下は、フクロウやチョウゲンボウ、イタチやキツネのようなハタネズミ捕食者に甚大な影響を与えるだろう、とランビンと言う。

バックス郡のコウモリ坑道で、生き残ったのは1万羽のうち23羽

バックス郡（ペンシルベニア）の最大のコウモリ集団が恐ろしい運命に遭った。科学者たちは、何十年も放棄されている鉄鉱石坑道で冬眠していた1万羽のコウモリの、ほとんど全部が死んだことを確認した。

バックス郡のコウモリは、北東部全域で4年前から、驚くべき勢いでコウモリ集団を殺し続けている病気によって一掃された。…ペンシルベニア州では、洞窟で冬眠するコウモリの98%が死んでいる。

メキシコで、オオカバマダラ（蝶）が不気味に減少



メキシコで冬を過ごすために旅をするオオカバマダラの数が、今年は59%減少した。これは20年前に比較記録が始まって以来、最大の減少率だと科学者たちは報告している。

それは、アメリカとカナダから飛来するこのオレンジと黒の蝶の、3年連続する減少の3年目だった。…オオカバマダラの数の減少は、いま統計的な長期の傾向を示していて、その年や季節の偶然の組み合わせだったものと見ることは、もはやできないと専門家は言っている。

致命的なコウモリの菌類がいま22米州に広がる

この致命的な謎の菌類は、それが最初2006年2月に観察されて以来、何百万というコウモリを殺してきた。この菌類はいまアメリカの22州とカナダの5州で発見されている。…この菌類に罹るコウモリの集団は、70から100パーセントの死亡率を示している。治療法や薬は知られていない。

アフリカの森林象が深刻に減少している

ある研究によると、森林象の数が、過去 10 年間に中央アフリカ全土で 62%減少している。…この分析は、アフリカの森林象が、おそらく次の 10 年以内に絶滅へと突入する懸念を確認するものだった。我々はこういう結果を予想してはいたものの、ほんの 10 年という期間の減少が 60%を超えたことに戦慄を覚える、と Maisels 博士は BBC Nature に語った。

スコットランドの海鳥の数が急落

スコットランドの海鳥の群が劇的に減少しつづけている、と Scottish Natural Heritage に載った新しい報告は述べている。…25 年という期間に、彼らは 50%の減少を確認した。…1986 年から 2011 年にかけて、スコットランドで繁殖する海鳥の数はほぼ 53%減少し、最近数年、減少傾向が続いている。…中でも最悪のものは Arctic skua (トウゾクカモメ) の 74%、Arctic tern (アジサシ) の 72%、そして黒い脚をした kittiwake (ミツユビカモメ) の 66%である。

大規模なサンゴ礁の死滅



大規模なサンゴ礁の死滅が世界中で起こっている。科学者たちのある報告によれば、オーストラリアでは、グレート・バリア・リーフの半分以上が死に、過去 27 年の間に消滅した。サンゴ礁が攻撃されるさまざまな要因には、サンゴ漂白、増加する暴風、海洋酸化、陸からの汚染物質、沿岸開発、漁業による損傷などがある。

ハワイでは、サンゴの死滅の原因が謎で、科学者たちは広範囲のサンゴ礁が何によって死んでいるのか注意深く調べている。

ブラジル北東部のサンゴ礁は更にひどい状態にあり、過去 50 年間に 80%が死んでいる——「都市と産業の濫用と汚染」によるもの、とある報告は言っている。

カリブ海のイワシ漁が崩壊

南カリブ海は、過去 10 年間にイワシ漁崩壊の憂き目にあっている。漁獲高は 87% も落ちて
いる。2005 年以來、カリブ海のプランクトンのレベルは驚くほど低下し、これが過剰漁獲
と一緒にあってこの漁業崩壊を招いたものと思われる。

ベネズエラのイワシ漁獲高は、2004 年の 20 万トンから現在の 4 万トン以下に落ちている。

海に魚がいなくなる可能性がある

地球全体の魚が乱獲され、あまりにも激減したので、緊急の手段を取らない限りは、海か
ら食糧を得られるのは我々が最後になるかもしれない。世界の魚の消費は記録を破り続け
ており、地球の魚介量のほぼ 85% は、過剰に獲られたか根こそぎ獲られたものである。海
床の広い範囲が砂漠状態になっている。

クジラの座礁の劇的な増加



過去 20 年のオーストラリアで、クジラの座礁は年に 5 頭ほどだった。しかし 2011 年だけ
で 25 頭が座礁しており、クジラの群の健康状態の長期調査が必要となっている。たくさ
んの若いクジラが海岸に打ち上げられており、この動物が飢えているか病気にかかっている
かを示すものと思われる。

ほとんど毎日のように我々は、クジラやイルカの座礁と死のニュース、そしてそういった
集団座礁がますます増えているという報告に接している。

北海に残っているタラは 100 尾だけ？

北海のタラの成魚が徐々に減り、13歳以上のものは100尾ほどしか残っていないと、タラの将来が懸念されている。ヨーロッパの漁港での漁獲量の調査によって、漁師たちは昨年（2011）、13歳以上のタラを1尾もとっていないことがわかった。これは、将来に世代を永續させるだけの卵や幼魚が減っていることを意味する。

フカの数の激減



新しい研究によると、フカの数が90%減少しており、絶滅へ向かっている可能性がある。にもかかわらず毎年、沢山のフカがアジア人の珍味として殺されている。フカを研究すればするほど、その見通しは暗くなり、ますます保護の努力が必要になってくる。

そしてフカもまた海の生態系に重要な役割を果たしている。ノヴァ・スコシア州、ハリファックスの Dalhousie 大学の研究は、トップの捕食者がいなくなることが海の生態系に対しても連鎖効果を記録している少数の研究の一つである。

北米の淡水魚が絶滅に向かっている

北米の淡水魚が、他の種と比べ驚嘆的なスピードで絶滅へ向かっている。絶滅の率は1950年以後、目に見えて急上昇した——最近10年間はゆるやかだったが。絶滅種の数も1989年以後27%増えている。少なくとも57の北米種と亜種、それに3つの固有の集団が、1989年以後絶滅している。

リトル・ペンギンが絶滅の瀬戸際に

オーストラリア、グラニット島のリトル・ペンギン集団が、10年前の1600羽から現在は20羽に減り、絶滅に瀕している。160羽のリトル・ペンギンが、昨年、南オーストラリアの海岸線で死んでいるのが見つかった。その十分な理由は謎のままであり、その群棲地は近く消失すると思われる。

ペンギン数の急落



過去 20 年の間に、ペンギンのコロニーの 36%が食糧不足のために減っている。この鳥は主食源をオキアミに依存している。この小さなエビに似た動物は南極海の氷の塊に付着している。しかし氷が解けるにつれて、オキアミ数も減少している。

ペンギンは我々の聞かねばならぬ話を語る。彼らは特に環境の変化に弱く、この時点で、18のうち11の種が「脆弱種」または「絶滅危惧種」とされている。

癌にかかった魚！！

魚の癌の最初のケースは、グレート・バリア・リーフで発見されたもので、その魚の 15%が罹っていた。これは人間の健康危機を予兆するものでありうる。グレート・バリア・リーフは地球のオゾン層の大きくあいた口の真下にある。だからこれは、実験室の外の紫外線によって魚が皮膚癌を発症するという、最初の（嫌なことだが強い）証拠である。

危機にある地球惑星

この惑星は危機にさらされている。過去 40 年間に、野生生物集団の数は 30%以上も減少した。それは、人間の健康と福祉に深刻な意味をもつ自然資源の記録的な過剰消費と、同時に起こった。

減っていくイギリスの蝶

イギリスの蝶類は衰退し続け、過去数年の間にその数を 40%も落としている。蝶保存協会は、この衰退を昨年（2011）の記録破りの冷夏にせいにしたが、同時に、田園地方全体で

適当な蝶の住みかが長期的に悪化しつづけていることをあげた。

病気がミツバチ、コウモリ、カエルを襲う



病気が、コウモリやミツバチや両生類の集団を荒廃させており、多くの種が絶滅の危機にある。多くの種が非常に大きなストレスの下にあって、病気につけ入れ易くなっているようだ。

過去数年間のミツバチとコウモリの死の数を見れば、誰でも驚くだろう。**300万**のミツバチのコロニーが死に絶えた。そして**670万**のコウモリが死んだ。そしてミツバチもコウモリも、我々の食べる多くの食品の生産にとって重要なものなのだ。

ヨーロッパの鳥類の危機

農地の鳥が壊滅的に衰退して、過去30年に3億羽の鳥が姿を消した。これは50%の減少になる。ヨーロッパ全土で食糧生産を押し上げるために、広く生垣を引き抜き、湿地を干拓し、牧草地を耕したことが、農地の鳥から住居と食糧を奪うことになった。多くのヒワやキジバトやタゲリが、その結果いなくなった。

英国では、鳥の集団は1996年以来、4,400万羽減少した。イエズメはその中でも最悪のケースであり、1960年代と比較して2,000万羽も減った。

無脊椎動物種が脅威にさらされている

世界の無脊椎動物種（ミミズから蜂、蝶、エビなどまで）の5分の1が絶滅に瀕している。科学者の報告によれば、これらの動物は広大な異なった種類の脅威にさらされ、軟体動物は、農法や建設から生ずる汚染の被害を受け、ザリガニは、外来種や病気からくる脅威に直面している。